

平成 28 年度 名古屋市立高校生の海外派遣事業

マレーシア派遣団 研修報告書

訪問先：マレーシア

期 間：平成 28 年 7 月 25 日（月）～8 月 5 日（金）



目 次

はじめに（団長 鈴木 克則）	・・・	1
海外派遣団員名簿	・・・	2
現地研修 訪問先一覧	・・・	2
事前研修 国内企業訪問先一覧	・・・	2
事前・事後研修 日程	・・・	3
現地研修 日程	・・・	4
企業視察		
① ボンタイン珈琲／F I K R I S Z	【西 陵】小澤 素子	・・・ 5
② U S M／Queensbay Mall／ジョージタウン	【西 陵】後藤 天恵	・・・ 6
③ クラリオン／SMI Holiday	【若宮商業】春谷くるみ	・・・ 7
④ 各ホテル／在ペナン日本国総領事館	【若宮商業】大塔 真矢	・・・ 8
ホームステイ体験記		
① 新しい家族	【西 陵】小澤 素子	・・・ 9
② 一生忘れることができない4日間	【西 陵】後藤 天恵	・・・ 10
③ カルチャーショック	【若宮商業】春谷くるみ	・・・ 11
④ 貴重な体験	【若宮商業】大塔 真矢	・・・ 12
海外派遣に参加して		
① 異国を感じる	【西 陵】小澤 素子	・・・ 13
② 知った、やった、未来につなげていこう	【西 陵】後藤 天恵	・・・ 14
③ 異文化理解	【若宮商業】春谷くるみ	・・・ 15
④ 12日間を通して	【若宮商業】大塔 真矢	・・・ 16
あとがき（総務 吉田 晴美）	・・・	17

はじめに

名古屋市立高校生海外派遣 マレーシア派遣団

団長 鈴木 克則

(名古屋市立若宮商業高等学校長)

平成28年度名古屋市立高校生海外派遣事業 マレーシア派遣団は、7月25日から8月5日までの12日間、海外で研修を実施いたしましたので、ご報告いたします。

これまで商業・工業・総合学科の派遣団(NACOS)として10人の生徒を派遣していた事業が、今年度は、商業・総合学科の派遣団として4人の生徒を派遣することになったため、今までと同様な研修を行うことは困難であることが予想されました。そこで、これまで以上に事業の成果を上げるためにはチームワークを高めることが必要であると考えました。さらに、事前の研修は実施する回数が少なかったため、1回の研修で効率的な研修を行うことが求められました。

その事前研修では、マレーシアの文化、生活、宗教などの現地事情はもちろん、マレー語についてマレーシア人の方から学ぶ機会を得ました。マレー語については、特に日常生活で必要になる言葉や挨拶などを中心に学び、現地での研修に生かすことができました。また、メンバー同士が頻繁にコミュニケーションを取り合ったことにより、チームワークを高めました。

さて、マレーシアに到着後すぐに、マレーシア科学大学の副田雅紀先生から現地の事情を詳しく教えていただきました。その後1週間ほどホテルに滞在し、企業や学校訪問、市内視察を行ったことは、生徒たちにとって、学んだことを実際に確かめられ、マレーシアをより身近に感じる良い機会となりました。

今年度は新たな取り組みとして、コーヒー工場や旅行会社において、インターンシップを実施しました。コーヒー工場では、パックされたコーヒーを箱詰めするということを体験しました。箱詰めという作業が自動化されておらず、人の手によってなされていることは意外でしたが、現地の人たちと触れ合うよい時間となりました。また後者の旅行会社では、外国人が名古屋を旅行するプランを立てるよという指示が会社のマネージャーからあり、生徒たちは真剣に旅行プランを練っていました。作成したプランは、高校生ならではの視点が多くちりばめられており、マネージャーからは絶賛の声が聞かれました。

1週間の滞在ののち、4日間のホームステイを体験しました。私も含め、生徒たち一人一人が一つの家庭に滞在するという機会に恵まれ、日本では味わえない文化の違いや言葉の違いを肌で感じました。私たちが滞在した場所は、ケダ州のレラウという村でした。この村は、これまでも多くの外国人を受け入れており、私たちにもたいへん親切に対応していただきました。おかげで、最初は戸惑っていた生徒たちもすぐに村の生活に慣れ、マレーシアの家庭生活に溶け込んでいました。私が滞在した家庭は、夫婦と2人の息子というごく普通の家庭でした。出された食事を皿に取り、右手でつまんで食べたというのは私にとってもとても新鮮な体験でした。そして、「クニャン」(お腹いっぱいです)と言わないと、「もっとどうぞ」と食事を勧められるおもてなしの心、いつもコミュニケーションをとるときの笑顔は、派遣団全員の心に深く印象づけられました。

今回の研修では「知って、やって、未来につなげる」をキャッチフレーズとして行ってまいりました。派遣団の生徒たちが、多くのことを知って、体験して、そしてこれからの日本とマレーシアの架け橋となることと確信しています。

最後になりましたが、名古屋市教育委員会の皆様を始めとして、関係の方々から多大なるご支援をいただいたことに深く感謝いたします。

海外派遣団員名簿

学校名	氏名	学科等	学年
若宮商業高等学校	鈴木 克則	校長 団長	
若宮商業高等学校	吉田 晴美	教諭 総務	
西陵高等学校	小澤 素子	総合学科	3年
西陵高等学校	後藤 天恵	総合学科	3年
若宮商業高等学校	春谷くるみ	会計ビジネス科	3年
若宮商業高等学校	大塔 真矢	総合ビジネス科	2年

現地研修 訪問先一覧

訪問日	名称
7/26 (火)	マレーシア科学大学
7/26 (火)	イオンクイーンズベイモール店
7/27 (水)	Hotel Royal Penang
7/27 (水)	在ペナン日本国総領事館
7/28 (木)	FIKRISZ (M) SND. BHD.
7/28 (木)	AiU-Irsyad International School
7/29 (金)	SMI HOLIDAY (M) SDN. BHD.
7/29 (金)	Clarion (Malaysia) Sdn. Bhd.
8/2 (火)	SEKOLAH MENENGAH KEBANGSAAN SERI NIBONG

事前研修 国内企業訪問先一覧

訪問日	名称
7/11 (土)	株式会社ホテルグランコート名古屋
7/21 (木)	株式会社ボンタイン珈琲本社

事前研修 日程

回	研修日	曜日	時間	主な研修内容	場所
1	5/27	金	16:30-19:00	ガイダンス、NACOSの意義	教育館
2	5/28	土	8:50-12:00	研究テーマ、役割分担等	教育館
3	6/4	土	8:50-13:00	マレーシア語①、現地事情①	若宮商業高校
4	6/12	日	8:50-13:00	マレーシア語②、現地事情②	ルブラ王山
5	6/12	日	13:00-16:30	前年度の研修団との合同研修及び交流会	ルブラ王山
6	7/2	土	8:50-16:00	事前研究発表、現地交流会の準備・練習	若宮商業高校
7					
8	7/9	土	10:00-12:00	合同出発式	教育館
9	7/9	土	14:00-16:00	株式会社ホテルグランコート名古屋訪問	名古屋市中区
10	7/20	水	13:00-15:00	現地交流会の練習	教育館
11	7/20	水	15:30-17:00	教育委員会への表敬訪問	市役所
12	7/21	木	13:30-15:30	株式会社ボンタイン珈琲本社訪問	名古屋市北区

事後研修 日程

回	研修日	曜日	時間	主な研修内容	場所
1	8/9	火	8:50-16:00	報告会準備（資料作成、発表練習）	若宮商業高校
2				HP用感想文作成	
3	8/22	月	8:50-16:00	お礼はがき作成、研修報告書作成	若宮商業高校
4					
5	8/30	火	8:50-16:00	研修報告書作成	若宮商業高校
6					
7	9/6	火	15:00-17:00	帰国報告会	市役所

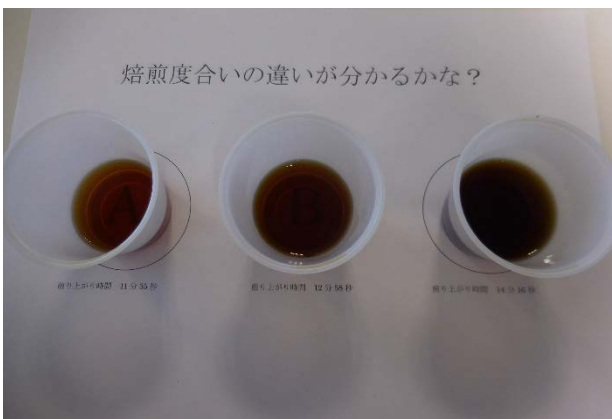
現地研修日程

日次	月日	都市名	時間	交通機関	スケジュール	食事	宿泊
1	7月25日 (月)	中部国際空港 シンガポール ペナン	10:30発 16:20着 19:00発 20:10着 21:15	SQ671 SQ5308	シンガポール航空にてシンガポールへ シンガポール航空にてマレーシアへ ホテルチェックイン (ペナン泊)	昼：機内食 夕：機内食	ホテル
2	7月26日 (火)	ペナン	午前 午後	専用車	マレーシア科学大学にて、オリエンテーション クイーンズベイモール見学 (ペナン泊)	朝：ホテル 昼：USM 夕：フードコート	ホテル
3	7月27日 (水)	ペナン	午前 午後	専用車	現地企業視察 ロイヤルホテル 現地官庁視察 在ペナン日本国総領事館視察 (ペナン泊)	朝：ホテル 昼：ロイヤルホテル 夕：レストラン	ホテル
4	7月28日 (木)	ペナン ケダ	午前 午後	専用車	現地企業インターンシップ FIKRSZ (コーヒー工場) 現地学校見学 International School (Aiu-Irsyad) (ペナン泊)	朝：ホテル 昼：レストラン 夕：フードコート	ホテル
5	7月29日 (金)	ペナン	午前 午後	専用車	現地企業視察 クラリオンマレーシア 現地企業視察 SMI Holiday (ペナン泊)	朝：ホテル 昼：レストラン 夕：レストラン	ホテル
6	7月30日 (土)	ペナン	終日	専用車	市内視察 世界遺産都市ジョージタウン (ペナン泊)	朝：ホテル 昼：レストラン 夕：フードコート	ホテル
7	7月31日 (日)	ペナン	終日	専用車	市内視察 極楽寺、寝釈迦仏寺院、ダーミカマラビルマ寺院 ガーニープラザ (ペナン泊)	朝：ホテル 昼：フードコート 夕：レストラン	ホテル
8	8月1日 (月)	ララオ村	午前 午後	専用車	ホームステイ先へ移動 到着後入村式、その後ホストファミリー宅へ ホストファミリー宅で自由行動 (レラウ村 ホームステイ)	朝：ホテル 昼：各自 夕：各自	ホームステイ
9	8月2日 (火)	ララオ村	午前 午後	専用車	現地学校見学 国立セリニボ高校 ホストファミリー宅で自由行動 (レラウ村 ホームステイ)	朝：各自 昼：各自 夕：各自	ホームステイ
10	8月3日 (水)	ララオ村	午前 午後 夜	専用車	ララオ村視察 ゴムの採取、ヤシの実、蜂蜜の採取を見学 マレーシアの伝統的な遊び ホストファミリー宅で自由行動 交流会・ダンス体験 (レラウ村 ホームステイ)	朝：各自 昼：学校 夕：各自	ホームステイ
11	8月4日 (木)	ララオ村	午前 午後 21:00発 22:15着	専用車 SQ5307	体験学習 パティック (染物) 体験 お別れセレモニー クイーンズベイモール自由視察 シンガポール航空にてシンガポールへ チャンギ国際空港視察 (機中泊)	朝：各自 昼：レストラン 夕：機内食	機内
12	8月5日 (金)	シンガポール 中部国際空港	01:20発 08:50着	SQ672	シンガポール航空にて名古屋へ 到着後、入国・通関	朝：機内食	

時差は1時間

私たちは、事前研修にボンタイン珈琲、現地企業視察でF I K R I S Zへ行きました。

まず、ボンタイン珈琲ではコーヒーについて教えていただきました。コーヒー農園というのは、昼夜の温度差を利用するために山の斜面に作られており、主にコーヒーベルトと呼ばれる1年中暖かい地域で栽培されているそうです。コーヒー豆の収穫は機械が使えないため、すべて人の手で行われているそうです。豆の精選方法はナチュラルと呼ばれる昔からの原始的な非水洗式処理と、ウォッシュドと呼ばれるタンクに入れ豆を選別する水洗式処理があります。ウォッシュドは水を大量に使うため、水の多く使える地域に限るそうです。精選が違うことにより、コーヒーの味も変わってきます。また、焙煎の仕方でも味は変わります。浅煎り→中→深になるにつれて、酸味が減少し、苦みが増し、色も濃くなるそうです。実際に、飲み比べてみましたが、香りから味まで違いを確認することができました。



実際に飲み比べたコーヒー

工場内も見学させていただきました。そこでは、パイプと空気を使い豆を上階へ運んでいました。余分なものを一緒にしないために、豆だけが上がるよう、空気の量を調節するという

工夫がされていました。

そして、F I K R I S Zでは主に出来上がった商品を箱詰めするといったインターンシップを行いました。ここでは、すべて手作業で行われており箱を区切って数を間違えずにパッキングできるような工夫がされていました。



インターンシップの様子

工場内には日本で使われている5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の標語が掲げられていました。

F I K R I S Zの方に精選方法を聞いてみると、ナチュラルだと言われた時、ボンタインで学んだことを活かすことができたのではないかと思いました。

私は、これらの企業を視察して、どの国の会社でもお客様を第一に考えているということを感じました。実際に、ボンタインコーヒーという社名には日本の誰にでもおいしいコーヒーをという意味が込められていて、F I K R I S Zではお客様が欲しいものを考えるという企業理念を掲げていました。お客様を第一に考えるということは、当たり前ではありますが、このように社名の由来や企業理念として掲げていることを知り、この点に関しては日本とマレーシアに違いはないということに気づきました。

私たちは、初めに副田先生のいる USM（マレーシア科学大学）を訪れました。ここでは、マレーシアの基本的な知識、言語、文化、歴史、食事、民族衣装のお話を聞きました。また、研究室の事務官のシャジーラさんに、マレーシアの伝統的な挨拶の仕方を教えていただきました。

お昼には、ハリラヤと呼ばれる断食明けのお祭りの昼食会に招待していただきました。USM の学部長にお会いし、他の教員の方も正装をしているところを間近で見せていただきました。そこで初めて、マレーシアの伝統的な食事をいただきました。

その後、私と、ちは、Queensbay Mall へ移動しました。ここでは、日本のショッピングセンターとの違いを「価格、店員、取り扱い商品」の面で自分たちの目で見えて確かめることができました。価格は、水は RM0.4、日本円で12円です。日本と比べ、とても安い印象です。次に、店員については、役職により制服が異なっていました。取り扱い商品に関しては、フルーツのサイズが小さく、日本にもあるブランドが並んでいました。また、持ち帰り用のバスケットを購入する方式でした。



サイズの小さいフルーツ

6日目はジョージタウンへ向かいました。ジョージタウンは世界的にも有名な世界遺産都市です。

USM の学生の方に案内してもらいながら見学しました。私たちは副田先生から、「なぜジョージタウンは世界遺産なのか」という課題を出され、その答えを USM の学生の方に教えていただきました。それは「ジョージタウンの街並み、景観を壊されないようにするため」というものでした。そのため、実際にジョージタウンを訪れたとき、綺麗なまま保存されているのだと実感しました。



ジョージタウン内のお寺

ジョージタウンの中にはインドネシアのモスク、アチェモスクやヒンドゥー教の寺院、中華系のお寺など様々な民族の寺院やモスクがあります。1つの街にしながら、様々な民族的文化を体験することができました。

ジョージタウン内を歩いていると様々なアートを見ることができました。ウォールアートやアイアンアートなど日本では見ることができないアートの街並みを体感することができました。

ジョージタウンではマレーシアらしい様々な文化を目で見て、また、体で体験することができました。

私たちは、5日目に日系企業のクラリオンと SMI Holiday を訪れました。

クラリオンは、1970年に設立されたペナンで一番古い日系企業です。本社は埼玉県にあります。主力製品は、車のナビ・オーディオです。オフィスと工場が同じ敷地内にあるため、企画・設計から開発・販売まで同じ場所で行うことができます。また、社員全員に5kgのお米がプレゼントされたり、ハリラヤなどのお祭りの際にはボーナスが与えられたり、日本にはない制度についてお話を聞くことができました。社会貢献として地域の清掃・ゴミ拾いの行事もあるそうです。

副社長の秘書は現地で採用された日本人で、海外で働く方法も教えていただきました。お話を聞いた後で、帽子と白衣を借りて工場の見学をしました。基盤と部品を付けるところから梱包するところまでを見せていただきました。検査をしたり、データの確認をしたりと人の手が多く使われていました。今の技術では、機械よりも人の手のほうが正確で、それは多くの種類のカーナビに対応するためだそうです。機械の方が正確だと思っていたので、驚きました。工場は24時間稼働しており、人の手が必要な場合は昼に行っているそうです。



クラリオンにて集合写真

SMI Holiday は旅行会社です。この会社では、日本から来る人の受け入れや日本に行くツアーの紹介、マレーシアに住む日本人の手助けをしているそうです。

日本への高校生向け旅行プランの作成を体験させていただきました。食事代や交通費を細かく調べたり、移動する時間も調べたりと難しかったです。さらに調べたことを英語で入力するのも苦労しました。完成したプランでプレゼンを行いました。同年代ならではの立ち寄り先や、住んでいないとわからない新しくできるテーマパークや名古屋城のライトアップ見学など、私たちのアイディアに所長さんが喜んでくださったのでうれしかったです。

体験のほかにも、所長さんから海外で働くことの大変さや、イスラム教の方との結婚生活、国民性の違いから生じるトラブルなどのお話を聞くことができました。



SMI Holidayにて集合写真

クラリオンと SMI Holiday を訪問し、工場見学や旅行プランの作成を通して、多くのことを学ぶことができました。さらに、実際に海外で働いている方のお話をたくさん聞くことができたのでとても貴重な時間だったと思います。この体験を未来へつなげていきたいです。

私たちは、国内でホテルグランコート名古屋、現地でホテルロイヤル、泊まったホテルのシティホテルホテルを見学・学習をしました。



ホテルロイヤルでの集合写真

マレーシアと日本との違いは、礼の仕方です。右手を左肩に添えて礼をしていました。ホテルをPRするポスターも右手を左肩に添えたポーズで写っていました。

現地のホテルには持ち込み禁止とされる果物があります。それはマンゴスチンとドリアンという果物です。マンゴスチンは割ったとき独特の赤い汁が出てその汁がシーツなどにつくと取れないからです。ドリアンは特有のきついにおいのせいで持ち込みが禁止されています。どちらも持ち込んだ場合罰金がとられると、ホテルの部屋に注意書きがありました。

そして一番大きな違いは宗教的なことです。SURAUと呼ばれるお祈り所があり、部屋にはお祈りに使うマット、モスクの方角を指した矢印が部屋の天井にありました。従業員の方もお祈りをするそうです。ムスリムの方たちはお酒を飲むことも触ることもできないので、お酒を扱うお店には入ることがないよう看板がついていました。そして、宗教によって食べられるものが違い、イスラム教の人は豚を食べることができないので、ハラルのマークを付け、多くの種類の料理を置くなど様々な配慮がなされて

いました。

ホテルロイヤルを訪れた後、在ペナン日本国総領事館を訪れました。そこでは、総領事館での仕事、総領事館で働くにはどのような方法をとればよいかということを中心に教えていただきました。



担当の方にお話を伺う様子

総領事館の仕事は、出生届、死亡届等戸籍にかかわる重要な文書を日本へ送付するなど、現地の日本人を手助けすること。また、マレーシアの近況を日本に報告し、日本人観光客の手助けをする市役所のような仕事をしているということをお聞きしました。

総領事館で働くには大きく分けて2つあります。1つ目は、外務省に入ること。2つ目は、派遣員制度で応募することだそうです。外務省に入るのには、3種類の試験方法があり、試験方法によって難易度が変わり、できる仕事も変わるということも聞きました。海外での経験を積みたいのなら派遣員制度がお勧めだと言っていました。

話を聞いてさらに海外での生活や海外で働く方への興味が大きくなりました。今よりも英語を詳しく学習し、他の国にも行き、生活の違いやそこで働く人がどんな方なのかを見たいと思いました。

私は、8月1日から3泊4日でホームステイを体験しました。最初は、1家族に生徒2人と聞いていてとても楽しみにしていましたが、現地で突然各家庭に生徒1人と聞かされ、とても驚き不安でいっぱいになりました。ホームステイで私が目標としていた「より多くの人とコミュニケーションをとる」ということが本当に実現できるのか、積極的に色々なことに挑戦することができるか、とても不安になりました。

入村式になり、家族が発表されホストマザーに挨拶をしてから、ホストファミリーが経営している食堂に連れて行ってもらい、そこで昼食をとりました。しかし、そこはまるで別世界のようで、私が想像していたものとは全く異なっていました。机の上はこぼれた汁やジュースがそのままになっていました。そして、見たことのないぐらいの数のハエが飛んでいて、私の食べようとしているご飯やジュースにたかっています。それを見た瞬間、このまま最終日まで充実させることが本当にできるのだろうか、という気持ちでいっぱいでした。それに加え、ホストマザーには英語が通じず、どのように自分の意思を伝えればよいのか1日目から心配になりました。



ホームステイ先の家

しかし、そう思っていたのも最初の3時間ほどで、それからは英語の通じるホストシスターと共にたくさんのところへ行きました。ナイトマーケットや天体観測、友達の家に行きました。またマレーシアの果物ドリアンやマンゴスチン、ランブータンを食べ、民族衣装を着るなど多くのことにも挑戦しました。まるで本当の家族がもう1つできたようで、とても嬉しかったです。



実際に着させてもらった民族衣装

私は、ここで言葉が話せなくても自分次第で相手に気持ちを伝えることができると気づきました。実際に自分がマレー語を話せなくても、自分なりのジェスチャーや簡単な言葉で、伝えようという気持ちがあれば、相手にその気持ちが伝わり、自然と仲良くなれるのだと思いました。

この4日間で多くのことに挑戦し、マレーシアを肌で感じ、たくさんの人々と自分から積極的に話しかけることができ、私が目標としていたことを達成することができました。また一つ成長することのできた、とても貴重な体験となりました。この経験を活かし、今度は私が多くの人に日本の良いところを伝え、更に自分がマレーシアだけでなくどこかの国との架け橋になりたいと思いました。

ホームステイ体験記②

一生忘れることができない4日間

名古屋市立西陵高等学校 後藤 天恵

私たちは、1人1家庭に、4日間ホームステイさせていただきました。私の目標である、現地の方とコミュニケーションをとるということを実現できるいい機会だと思い、積極的にかかわることを決意し、ホームステイ1日目を迎えました。

私のホストファミリーは、ファーザーとマザー、ブラザーとシスターの4人家族でした。入村式の時にマザーと対面し、とても優しくそうな方だなという印象を受けました。マザーと二人で家に向かう時、初めてバイクの二人乗りを経験しました。私のキャリーケースを村の方の車に乗せていただき、家まで届けていただいた時は本当に村全体で私たちを歓迎してくださっているのだと感じました。



部屋の写真

私のマザーはマレーシア語しか話せませんでした。私自身マレーシア語に関しては、挨拶程度の言葉しか知らなかったもので、初めはコミュニケーションをとることができず、これからの4日間に不安を感じていました。思いを伝えたくても、伝えられないもどかしい気持ちを経験しました。

そんな私にマザーは私に自分の昔の写真を見せてくれました。その写真を見ながら、ボディラングージを使い会話をしたことはとてもいい思い出です。

言葉が通じなくても、コミュニケーションがとれるのだと私の不安を解消してくれました。その後、ブラザーとブラザーの友達と英語で雑談をし、私の目標である「コミュニケーション」をとることができました。

2日目の夜11時ごろに、ファーザーから突然「Amae! Jom! jom!」と言われ、食事をしに行きました。私は、こんな夜遅くからまだ食べるのかととても驚きました。しかしそこではシスターとも共通の話題で盛り上がることができ、楽しい夜を過ごすことができました。

最終日には、ファミリーと日本のアニメの話や、マレーシアと日本で一番違うところはどこかなど話して、お互いの国についての理解を深めることができました。退村式には間に合いませんでしたが、シスターは学校が終わり次第駆けつけて、家族全員で見送ってくれた時は、この家で4日間過ごせてよかった、家族の温かさに触れられよかったと思うことができました。1日目は不安や孤独で涙を流してしまう場面もありましたが、それも今ではいい思い出です。それを乗り越えたからこそ、真のコミュニケーションとは何かということを学ぶことができました。この経験は、私の将来に必ず役立つと確信しています。



ファミリーとの写真

私たちは8月1日から3泊4日でホームステイを体験しました。この研修の中で最も期待と不安が大きいものでした。

初めてホストマザーと会った時には、英語が通じることがわかり少しほっとしました。自己紹介をして「ママ」と呼んでと言われ、歓迎された時はうれしかったです。家の中を案内されてとても驚きました。なぜなら、私が使う部屋はハエ、アリ、ヤモリ、ガがいたからです。さらにバスルームには電気がなく、シャワーもホースのようなものがあるだけで生活できるかとても心配になりました。



家の前でホストマザーと

しかし、食べ物は心配していたほどではありませんでした。辛いものが苦手だと伝えるとあまり辛い食事を用意してくれました。おやつには取ってきたばかりのマレーシアならではのフルーツを食べさせてくれました。ランブータンやドリアン、マンゴスチンなど食べ方がわからなかったのですが、ホストファミリーの子どもたちが教えてくれました。どれも日本にはない味でしたがとてもおいしかったです。フルーツにアリがついたままでも平気で食べている子どもを見て遅いと思いました。食べ残した物を冷蔵庫で保管するという習慣が無いようで、そのまま置いていました。日本では放置すると

腐ってしまいますが、マレーシアでは冷蔵庫も必要ないのかと驚きました。一日に6食も食べていて日本では考えられないと思いました。おやつもご飯と同じくらいの量があり、食べることができませんでした。

ホストマザーに初めてバイクに乗せてもらいました。ヘルメットもつけなくて標識も信号もない道を走るの少し怖かったです。楽しかったです。ヤシの木、ランブータンの木、マンゴスチンの木などたくさん木が生えていて、自然の中は気持ちよかったです。

近所とのつながりが強いようで、朝でも夜でも誰かが訪ねてきました。夜の9時から11時までダンスパーティーを行って村の人とも交流することができました。



ランブータン

ホストファミリーと生活する中で、マレーシアの人は時間の感覚が日本人のそれと違うと感じました。集合時間からお祈りを始めたり、時間を過ぎてから家を出る支度を始めたりと日本にはない感覚だと思いました。

不安だらけのホームステイはあっという間でした。調べるだけではわからない文化を自分で体験して知ることができました。ここで出会った人々との繋がりを大切にしたいです。

貴重な体験

名古屋市立若宮商業高等学校 大塔 真矢

ホームステイ初日、1家庭に1人で滞在することになりました。4日間どんな生活になるのだろうという不安を感じました。一番大きな心配事でした。

ホストファミリーと昼食を食べることからファミリーとの生活が始まりました。初めは、私がマレー語をうまく話せなくて会話ができないと思い、マレー語が書かれた参考書が手放せませんでした。しかし、ホストファミリーはマレー語ではなく英語で会話してくれて「ゆっくりでいいよ。」と焦る私に励ましの言葉をくれました。



お店の前にて

私のホームステイ先はコンビニのようなお店をやっており、日用雑貨から食品まで何でも売っていました。このお店には研修以外の時間に何度かお邪魔させていただきました。たくさんのお客さんに声をかけられ、話をしました。日本語で「こんにちは。お元気ですか。」と話しかけられたこともありました。最初は緊張して全然話すことができませんでしたが、2回目に訪れたころにはお客さんに「Hello」「See you again」と必ず言うことができるようになりました。私の名前を覚えて呼んでくださるほど仲良くなれたお客さんもいました。マレーシアの方々の温かさに触れることができるとてもいい

機会となりました。

家族全員集まることが少なかったのも、あまり話をするのができなかった方もいてとても残念でしたが、年の近いお兄さん、お姉さん、妹さんとはたくさん話をすることができました。お姉さんの1歳の子どもには日本のおもちゃをプレゼントし、一緒に遊ぶことができました。逆にマレーシアの伝統的な遊び「チョンカ」を教えていただきました。



アーチェリー大会のメダルを触る子ども

ホストファミリーはご飯を手で食べる家庭で私も体験しました。初めのころはうまくご飯が掴めなかったり、チキンを骨から外するのに手間取ったりして、食べるのに時間がかかり大変でした。ですが、慣れてくるとファミリーと同じぐらいの速さで食べられるようになり、とても嬉しかったです。他にも自分で水を汲み流すトイレがあったり、カレンダーの数字が縦に並んでいたり、イスラムの行事が書かれているのを見せていただいたりと日本と違う文化に触れることができました。

ホームステイでは様々なことを体験させていただき、毎日新鮮で刺激的な生活を送ることができました。この経験により他の国で生活してみたいと思うようになりました。

異国を感じる

名古屋市立西陵高等学校 小澤 素子

最初は、マレーシアについて何も知らないまま興味本位でNACOSに応募しました。しかし、実際にマレーシアへ行き、現地の方々と交流することにより、どんどんとマレーシアの良さを知ることができました。

私が、マレーシアで学んだことは、人と人のかかわりの大切さです。現地の人々は、本当に優しい人たちばかりで、見ず知らずの私たちがいつも快く迎えてくれました。私たちが宿泊したシティテルホテルでは、たくさんの従業員さんがホテルの案内をして下さったり、日本語で話しかけて下さいました。また、ホームステイでは隣の家の方やホストマザーの経営している食堂の常連のお客様など、様々な方が話しかけて下さいました。そこで私がとてもうれしかったのが、食堂で出会った方に、「君は英語がとても上手だね」と言われたことです。日本語の通じない環境で、自分の英語が通じたことがとても嬉しく、自信になりました。



ホテルの営業担当の方との写真

また、市内視察では現地の学生の方と一緒に見学をしました。そこでも、学生の方は私たちのマレー語や英語が分かりにくくても、最後まで聞き取ろうとして下さり、時間はかかりまし

たが、たくさん話すことができました。

現地では、全てが初めてのことばかりだったため、何事もやってみることが重要だと思いました。マレーシアへ行き知らないことがあれば聞いてみる、知らない食べ物ならば食べてみる、初めて会う人でも話しかけてみる。私は、現地で何事にも挑戦してみた結果、たくさんの人と知り合い、おいしいご飯に出会うことができました。そして、場所がわからなくても現地の人に聞きに行ったため、道に迷わずにたどり着くことができました。



初めて食べたトウモロコシの揚げ物

私は、12日間で実際にマレーシアを肌で感じ、多くの人と出会うことができました。そして、多くの価値観を持つ人に出会い、たくさんを経験して、自分の視野を広げることもできました。ここで出会った人たちに感謝を忘れずこれからも出会いを大切に、自分から輪を広げていきたいです。実際に、何事も自分から積極的にやってみることで、今まで自分が知らなかったことを多く知ることができました。そのため、これからも多くのことに挑戦していき、新しい世界を見ていきたいです。

私がマレーシア海外派遣の12日間で学んだことは、数え切れないほどあります。国境を越えて実際にコミュニケーションをとる難しさ、現地の生活に合わせる大変さ、日本の生活に慣れ切っている私にはとても刺激的な12日間でした。しかし、その難しさ大変ささえ、楽しいと思えたのは、マレーシアの方の人柄の良さにあると私は実感しました。マレーシアの方は、右も左もわからない私に優しくしてくれ、困った表情を見せればすぐに手を差し伸べてくれる、その温かさに私は何度も救われました。

私が、現地研修で一番、英語でコミュニケーションをとることができたのは、学生の方とジョージタウンや極楽寺を観光したときです。USMの学生の方は、私たちにこの建物はなにか、この食べ物はなにかなど私たちに詳しく教えてくれ、そのおかげでジョージタウンや極楽寺について深く知ることができました。英語でコミュニケーションをとることに慣れていない私たちに、学生の方はゆっくり話してくれたり、わかりやすい単語を選択してくれたりしたのでとても会話がしやすく、楽しい時間を過ごすことができました。



一緒にトライショーに乗った写真

一緒にトライショーに乗り、ジョージタウンからホテルに戻る際には、日本の観光名所を紹介し

たり、逆にマレーシアのオススメのスポットを聞いたりなど、とても充実した時間を過ごすことができました。ここで、自分の中で目標にしていた「現地の方とたくさん英語でコミュニケーションをとる」ということを実現することができました。自分の語学力を試すことができたいい機会でした。ここで上手く伝えることができなかったことを反省し、次の機会につなげていきたいと思っています。



マザーとの思い出の一枚

コミュニケーションをとる上で大切なことはもちろん言語もですが、それだけではないと気付かされた一番の機会は、やはりホームステイです。マザーはマレーシア語しか話せませんでした。最後は私に直接思いを伝えようと、一生懸命身振り手振りで表現してくれました。私もそれに答えようとボディーランゲージや文字でマザーに感謝の気持ちを伝えることができました。伝えたいという思いがあれば、コミュニケーションは取れることを私はこの海外派遣で学ぶことができました。この学んだことを、周りに還元していきたいと思っています。そして国際交流をより発展させたいです。

この海外派遣は本当に驚きの連続でした。人も文化も言語も出会うものすべてが新鮮でした。極楽寺では、日本にないくらい豪華で煌びやかな装飾が施された仏像をみることができました。壁一面にお釈迦様が描かれていたり、床に蓮の花が描かれていたりとても派手な印象を受けました。寝釈迦物の周りにはお墓が買えない人のお骨が納められていて、顔写真と名前が書かれていました。日本にはないお寺の様子を見ることができました。大理石を削って造られた大きな柱は、厳かな雰囲気ですべて初めて目にするものでした。



大理石でできた柱

また、日本がマレーシアに寄贈した仏像もあり、日本とマレーシアの友好関係を自分の目でみることができました。

日本にはない多民族国家を体験することもできました。マレー系、中国系、インド系など異なる文化を持った人たちが集まっている企業や学校で、同じ生地でもTシャツやワンピースなどといったデザインの違う服を着ている人たちが共に活動していました。日本の制服は男女で違うだけなのでなかなか見ることができない光景と感じました。多民族国家で生活するという事は、常に異文化に触れ、理解し合わないといけないと思いました。

USMの学生との交流で聞いた日本旅行の感想にも驚きました。トイレには男・女と漢字で書かれた暖簾しか掛かっていなくてどちらに入るか迷った話、ウォシュレットを触ってしまった話など日本の文化に触れて驚いた話も聞くことができました。日本に来たことがない学生は日本の四季や雪を見たいということをお話してくれました。

完璧な英語でなくとも、ホテルの人、学校訪問で出会えた生徒や先生、案内してくれた学生と積極的にコミュニケーションを取ることができました。自分の英語が通じたときはとても嬉しくて、もっと話したい、もっと知りたいと思うことができました。さらに英語を勉強して自分が話したいことをすべて伝えられるようになりたいとも感じました。

この海外派遣で学んだことを自分の将来につなげることはもちろん、周りの人たちにもっと伝えていきたいと思います。また出会った人たちとのつながりを大切にして、これからもつながり続けていきたいと思っています。今回学んだことを基にマレーシアの文化、言語を学びたいと思います。さらに、日本とマレーシア以外の国の言語や文化にも触れて世界を知っていききたいと思っています。



ココナッツとドリアンを持って

私のNACOSでの目標は企業の方、ホテルの方、現地の学生、ホストファミリー、たくさんの方とコミュニケーションをとることでした。

なぜこの目標にしたかという語学力のアップと、私が人と話すことが好きなのでいろんな方と会話をしたかったからということ。そして、日本とマレーシアの架け橋になるにはまずコミュニケーションをとることが大切だと思ったからです。

私は、元々英語が得意なわけではないですし、今回マレーシアに行ってさらに自分の語学力のなさを痛感しました。最初は全くと言っていいほど自分からは話しかけることができず、話しかけられてもうまく返すことができなかつたり、おどおどしたりしてしまいました。一番の後悔です。

しかし、NACOSのメンバーが積極的にマレーシアの方々に話しかけていて、私も話したいと思い行動に移すことができました。現地の方が話している言葉がわからないときはメンバーに助けられました。そして、副田先生の勤めている大学の学生とジョージタウンに行った時に、また緊張して話すことができなくなってしまい、トライショーという人力車のような自転車に1人の学生と乗った時には、話しかけることもできませんでした。しかし、その方は頑張って日本語も交えて話しかけて下さり、緊張もほぐれ何とか会話をすることができました。その時、会話をすることが楽しくて初めて会った現地の方とも進んで会話をすることができるようになりました。

話せば話すほどその人はどんな人でどんなことが好きかを知り、日本とマレーシアの文化や生活、行動の違いに気づくことができたと思います。

ます。やはりコミュニケーションは大切だと思いました。



学生と会話をしている様子

ホームステイ中には、1家庭に1人になり、心細くてほかのNACOSのメンバーの家に行き、辛い口にしたこともあったくらいホームシックになってしまいました。でもそれがあったからこそ、日本で普通に過ごしていたら分らなかった家族や友人の大切さに気付くことができ、大きく人間性が成長させることができたと思います。

私にとって、NACOSは非常に大切な経験となり、またマレーシアに行きたいと思うほど一生忘れられないものとなりました。最初に掲げていた目標も語学力がアップしたかどうかは自分ではわかりませんが、いろんな方と会話をすることは達成できたと思います。次に、海外へ行くときは今より語学力をあげておき、たくさんの方と会話ができるようにしたいです。また、将来留学をし、世界を見たいと考えるようになるなど、今まで考えたこともない未来について考えるようになったことも大きな成長だと思います。本当にNACOSに参加することができよかったです。

あ と が き

名古屋市立高校生海外派遣 マレーシア派遣団

総務 吉田 晴美

(名古屋市立若宮商業高等学校)

今年で25回目を数えるNACOS(名古屋市立高校生海外派遣)は、大きく変化を迎えました。このマレーシア派遣団は従来とは異なり、西陵高校、若宮商業高校の2校4名の生徒と団長・総務を含めても6名という小さなグループとなりました。総務を担当することになり、これまで先輩方が培ってきたものを引き継ぐこと、そしてこれまで通りの実施は難しいことを考えると心配ばかりが先に立ちました。しかし、前任の名古屋商業高校の赤川先生をはじめとした歴代の団長や総務の先生方にご助言をいただき、また25年間積み上げられたものが支えとなり、スタートを切ることができました。

事前研修は、5月末から7月の出発までの二か月弱の短い期間で行うことになりました。4人でできること、必要なことを相談しながら進めていきました。キャッチフレーズを「知って、やって、未来につなげる」として、現地での活動を充実させるための期間として生徒は積極的に取り組んでいました。マレーシア語・現地事情の講師にマレーシア出身で名古屋工業大学の留学生の **Muhammad Dzylysyahmi bin Sha'arin** 様をお願いしました。ホームステイに備えてマレーシア語での自己紹介や日本との生活様式の違いなどを教えていただきました。企業研修では二つの企業で実施することができました。株式会社ホテルグランコート名古屋様に受け入れていただき、日本のおもてなしを学びました。また、株式会社ボンタイン珈琲本社様にてコーヒーができるまでの講義をしていただき、工場見学もさせていただきました。また、ペナンに出店している株式会社壺番屋様にも、資料のご提供を受け、質問をさせていただきました。

現地研修では「やって」を実践することができました。学んできたことを確かめたり、現地での生活体験を通じて様々なことに挑戦したりしました。特に今年は現地企業の **FIKRISZ** 様のコーヒー工場にてインターンシップを行いました。短い期間ではありましたが、働いている方たちの工夫などを体感できたと思います。そして、それらの製品はすぐに輸出されるとのことで、世界とのかかわりを感じるすることができました。また、**SMI Holiday** 様では旅行のプラン作りを体験させていただき、実際の旅行社がどのようにプランを作っているのかを学びました。他に在ペナン領事館やクラリオンマレーシア様、ロイヤルホテル様、宿泊先のシティテルを見学いたしました。また、マレーシア科学大学の学生の皆様に世界遺産を案内していただいたり、日本語を学ぶ中学校を訪問したりしました。団員たちは、日本に興味を持ち勉強している同世代との交流に刺激を受け、新しい友情を築くことができました。そして、幸運なことにホームステイでは当初の予定と変わり、それぞれが別の家庭に滞在させていただけることになりました。このことでよい意味で開き直り、より食欲に何でも体験しようと研修に取り組んでいました。ステイ先のファミリーを「家では…」とさりりと口にし、すっかり打ち解けていました。現地研修の当初には海外に来たことの緊張でなかなか言葉がでない場面もありましたが、帰国時には積極的に話しかけ、わからなければ質問しに行くなど頼もしく成長していました。

帰国後の研修では、「未来へつなげる」活動を行いました。昨年先輩方の報告を見て参加を決めたように、次の団員のきっかけとなるよう報告書を作成していました。事後研修の最後まで高い意識をもって、活動することができました。この派遣を通して、生徒が短い期間でどんどん成長し、新しいことを次々と吸収していく様子を目の当たりにすることができました。

この研修を通して多くの企業様や訪問先の皆様と出会い、お力を借りすることができました。研修を受け入れて下さった企業をはじめとした関係者の皆様、マレーシアでの研修をコーディネートしてくださった副田先生に心よりお礼申し上げます。

NAgoya City Overseas Seminar 2016

study→try→smiley

～知って、やって、未来へつながる～

名古屋市立高校生海外派遣研修マレーシア団

ホームページ <http://www.nacos.nagoya-c.ed.jp/>

この冊子の本文は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。